

2018年度GTセミナー GTサミット 2018 2018.8.20～8.21

第78号 2018年8月27日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社カガヤ 奥山卓矢

GTサミット 2018

2018年8月20日～21日にGTサミット 2018が
東京都中央区のコンgresクエア日本橋にて開催しました。

全国から100名程の先生方が集まり、園見学や各地域実践発表、
意見交換会等を2日間に渡り行いました。

外部講師として、教育観環境研究所所長の長澤悟様をお招きしました。

学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議にて、幼稚園施設部会
部会長として携わられた長澤様に「幼児教育の場にふさわしい豊かな
環境づくり」とは何かをテーマにご講演を行って頂きました。

参考：[ここからの幼稚園施設の在り方について](#)

長澤 悟氏プロフィール

東洋大学名誉教授、教育環境研究所長、国立教育政策研究所客員研究
員、法政大学非常勤講師

文部科学省：学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議副主査、
同幼稚園施設部会、小中学校施設部会、災害に強い学校施設づくり、小
中一貫教育推進のための学校施設等の調査研究部会長、(一社)文教施設
協会：老朽化校舎のレトロフィットデザインに関する調査研究会座長。

●2018年度セミナーレポート報告

第47回保育環境セミナー：本誌、第72～73号

※今年度の開催した保育環境セミナーの藤森先生の講演録や
Q&Aの議事録は上記のレポートからお読み頂けます。



—はじめに—

皆さんこんにちは。明日も講演があるのでどっちを言おうかと思うが、まず前提で私が最近考えていることがある。明日、明後日帰る時に台風が来るので心配。今年は台風が多く来る年だけでなく、かつてない動きをする。この前は逆走するとか、上陸すると普通は早くなるが遅くなるとか、これは世界的に気候が変わってきているから。かつての知識から進路が読めなくなっている、今、子どもたちに向ける時代が変わってきている中で、かつての子ども研究だけで読めなくなる時代が来る。その中で一番心配している一つが、日本全土が人口減少社会になる。かつての生めよ育てよの子育てと全く違ったものになってくる。IT化が進む中で、どんな力が子どもに必要なになるかも変わってくる。これまで保育がどうだったかが、必ずしも適用できなくなる。どういう時代になってくるか、私たちが何をするかを考えないといけない。心配事の1つが来年消費税が上がり、再来年オリンピックが終わると一挙に不況が来ると言われている。保育園の数が余ってくるのではないかとわれ、園がいなくなって閉鎖していく可能性がある。その時に保育園がどんな役割をしていくかを見ていかないといけないのと同時に、提案しないといけない。それから無償化がはじまります。無償化がどんな意味を持ってくるか。現在は保育園ではあまり意味がないと言われている。私の園でも無償化になって得をするのは、両親ともベントに送り迎えしてくる人が無料化になる話。何のために無償化なのかと思う。実際の保育園は、生活保護等の人は元々救われていた。有料である保護者は収入が多い家庭だから、その家庭が無償化になる。保育園がどういう意味になるか。無償化した時にどんなことが起こるかまず2つ考えられる。

—無償化で考えられる2つのこと—

無償かと言うことは、幼児教育は義務教育になる。そうすると一つは人口減少社会になると、小学生が減ってくる。小学校がいっぱい作られている中で、子どもが減ると4歳から小学校へ入れようということもあり得る。オランダなどでは4歳から学校へ入る。アメリカでは4歳半ではプレスクールに入る。保育園・幼稚園は4歳以下だけ見ればいいという可能性が出てくる。そうではなくて、今のまま保育園・幼稚園に行きながら義務教育化になる可能性がある。例えば韓国では、0歳から無償化している。そうするとどんなことが起こるかと言うと、国の責任で幼児教育を行うことだから、質を高めることを要求される。そのために起きたのがヌリ課程と言って、3歳以上をきちんと指針のようなもので、細かく書いてこれに沿ってしなさいというように質を高めようとしている。日本でも今後ありうるのは、指針と教育要領が二本立てだが、韓国では保育園でも幼稚園でも同じものを使っている。今年の改定で幼稚園教育要領と指針は、教育のことに関しては全く同じ文言になり1冊でいい。次の改定では1冊になる可能性もあるかもしれない。今、質を議論しているが、何が質が高いか混沌としている。一つは面積や保育士の数、日本における最低基準の質の高さ。もう1つは保育の中身の質。どんな時代になるかは読み切れないが、新しい時代を読むには一つ方法がある。

—時代を創る—

それは、私たちが時代を創っていく。どうなるかと時代を追いかけるのではなく、私たちが幼児教育の時代を創っていくことを行っていきたいと思っている。国にとって、世界にとって重要だからです。これは世界の研究から色々と明らかになっています。これを私たちが提案して大事なことだと言って、今までのような親の代わりに預かる託児施設ではないし、小学校の準備期としてのプレスクールではないし、フレーベルが訴えたときのように、

乳幼児期こそが重要なのだと、提案すべきだと思っています。それを提案することが、私の話す内容の1つだが、それをどうやって行くかをまず、ざっと今日は話したい。

—人類の起源から考える保育—

まずこういうことがあります。最初のきっかけが、数年前にNHKのドキュメンタリーで人類がどういったものかをやって、次に病の起源と言って人間の病の起源をテレビで放映され、今年は人類誕生という、どう誕生したかが放送された。私はこれに影響を受けている。私たちがどういう保育をすべきかと言うことを、人類の誕生から考えるべきだと思っている。オンデマンドで見たいが、人類では、ホモサピエンスをやっていた。3回シリーズで1回目にあることを示しています。人類の中で一時期ホモサピエンスが減びそうになったことがあった。私たちホモサピエンスが食べ物を探しに行って、生き延びる能力を身につけた。それは、海辺に出たときに海の貝を食べてみようと思いきや、生き延びた。その1つが好奇心が強いと言われています。ですから、今回の指針の改定の中の非認知能力。子どもの大事な力の中の1つに興味・関心が入っているのは、ホモサピエンスが生き残った一つのきっかけです。それから1回目のシリーズで人口が減って、減びそうになった時に多く生み、育てないといけないときに夫婦の中で一夫一妻と、一夫多妻の形がある。多く人口を増やすためには、一夫多妻の方が効率がいいと思っていた。しかし、1回目の放送では生き延びたのは一夫一妻の方が生き延びたと言っていた。子育ては夫婦の協力が必要であり、一夫多妻は女性1人で育てないといけないリスクが高く、母子家庭の方も社会が支えないとお母さんだけではリスクが高い。子どもの生存率が低かったことが分かっており、昔も一夫一妻の方が生き延びて来たそうです。今言うように夫婦の協力は一緒になって子育てをするということではなくて、役割を分けていた。当然狩りをしてこないといけないし、守っていないといけない。2回目は、ネアンデルタール人は私たちの先祖ではなくて、地球上に同時にホモサピエンスとネアンデルタール人が存在していた。その中で最近の研究で明らかになって来たのは、結果的にホモサピエンスは生き残って、ネアンデルタール人は全滅したのだが、それはホモサピエンスが頭が良く、道具を作り、色々したから生き延びたと思っていたが、最近の研究では、まったく間違いでネアンデルタール人は脳も大きいし、頭もいいし、言葉も使っていて優れていたことが分かってきた。運動神経もいいし、力を持っていたことが分かっています。道具も石器もすごいものを作り、ヨーロッパの多くに住んでいた。ホモサピエンスは、中央アフリカの一角にいたのが、だんだん広がっていく中で、ネアンデルタール人と中東辺りで出会うが、生き方が違うので戦いはしていないそう。戦いは同じ民族同士がするそうです。日本でも縄文人がいて、弥生人が来たが戦っていない。競合しない。弥生人は稲作で、縄文人は狩猟で特に戦っていない。戦いは、農耕民族と農耕民族が戦う。悲しいかな、人間の性は同じもの同士が戦っているという意味で、ホモサピエンスとネアンデルタール人は戦いはしていない、共存していく。最近少し交配していたことが分かっている。そういう中で、お互いが別々に生きていく中でネアンデルタール人が全滅している。頭が良くて、運動神経がよくないのでホモサピエンスは集団を大きく作っていたと言っていた。大きな集団を作ったことで、集団を小さく作っていたネアンデルタール人よりも、私たちが集団が大きいために協力をする力が増えたり、チームワークがいい。そのために智慧が上回って石器が進化している。ネアンデルタール人も道具を早く作るが、長い間進化していない。ホモサピエンスの基本には集団がある。ダンバーという人が、大体150人くらいが基本で、人間としていいと言われ、私たちは進化し文化を共有し、お互いに助け合ったために生き延びている。ネアンデルタール人は自分だけで生きようとする。少ない仲間内だけでしようとしていたから、結果的に減びてしまった。私たちは多くの集団を持つことに意味がある。協力する、助け合う、知恵を出して進化することをやっていた。話はそれるがホモサピエンスは、好奇心が強く、協力する、集団の中でやるのが最近薄れてきているので、人類学者は今にホモサピエンスは全滅するのではないかと言われてきている。3回目の放送では、どうやって日本へ来たか。これは私のやりたいことの一番だが、日本は中央アフリカからアジアへ行って、オセアニアまで来て、上から来るか下から来るかしかないが、上から来る場合は非常に寒い地域を通して来ないといけない。下からの場合は、海を渡って来ないといけない。同じホモサ

ピエンスでも、最も好奇心が強い人たち、最もチームワークがいい人だけが日本に辿り着いた。世界中の中でも、日本に辿り着いたのは、もっとも好奇心が強く、最も協力をし、チームワークがいい人たちが日本へやっと渡って来た。同時期にアメリカへ行くが、それは今いるアメリカ人ではない、もともとの先住民族の人たちは日本人に近い。その方は今追いやられてしまっている中で、私は日本が世界の中でホモサピエンスが生き延びた遺伝子を持った国民だと思っている。その国民から、幼児教育のカリキュラムが一つも提案されていない。私たちが学んだり、やったりしているのは基本的にヨーロッパのもの。モンテやフレーベル、イエンプランもそうだがみんなヨーロッパ。ヨーロッパはホモサピエンスがまず行って、住み着いている文化なので、どちらかと言うと個人主義なので、その人たちが作ったカリキュラムが広がっていると思っている。人類を救うのは、日本やアジアから出たカリキュラムをきちんと作るべきだと思っている。そして、その基本は好奇心などを含めて子ども同士が協力する、助け合う、集団の中で生きていく力を私たちは提案するべきだと思っている。

—G Tで提案していること—

私たちがG Tで提案する根底が0歳から関わる力。0歳から協力する遺伝子をどう残すかが、一番の保育の提案したい中心です。ホモサピエンスの基本からです。私は日本からと言うより、アジアからもう一度人類が減びないために発信するべきだと思っています、その仲間としてシンガポールや韓国中国に呼び掛けている。中国である日本の保育園がよく講演している。北京へ行った時に、もう一つの分科会で別の園が話をしていた。一つは、中国でアウトドア系のたくましく、森の中で走り回る保育が取りあげられていた。中山さんが講演した時に、中国の実践事例報告の時に、その園長はアウトドアを取り入れて実践しているようだった。一人っ子政策が増えて、ひ弱になっている。野山を駆け巡り、自然の中で育てるべきだと言っていて、ここまでは賛成できる。この後、非常に怖いことを言っていた。何でひ弱ではダメか、日本人南京虐殺の写真を見せて、こんなひ弱だから、こんなことをされたと平気で言っていた。これが一方で起きていること。その中で私が話す中心は、人類が競い合うことでは滅びてしまいます。アジアからせめて、皆で協力して、助け合う子どもたちを創って、世界を救いませんか。と言う提案をしている。アジアの人たちが手を組んで、ホモサピエンスとして最後に来た私たちの国々がもっと協力することで、世界を救いませんかと提案をしている。子どもたちの協力は、人をやつつけるためにあるわけではない。これが最近の10の姿の中でみんな話したことだが、卒園するまでに望ましい10の姿の中に道徳性、規範意識と言う項目がある。解説本には、道徳性は生得性ではないので躰ないといけないということが書かれ、教科化に道徳がなっている。赤ちゃんでも、生まれながら道徳心があると言われている。有名なのが丸い形のものが坂を上ろうし、四角がそれを助け、三角が邪魔する。そうすると赤ちゃんに四角と三角をどちらを取るかと言うと、助けた四角の方を選ぶ。それからぬいぐるみを2つだして、一つが一生懸命箱を空けようとして開けられず、もう一つは助けようとする。もう1つはわざとふたを閉めてしまうと、赤ちゃんは助けたぬいぐるみと遊びたがる。もう一つの実験はボールを投げてあって遊んでいる。違うぬいぐるみがボール投げると、どこかへ持って行ってしまふ。どちらのぬいぐるみと遊ぶかと言うと、一緒にボールを投げた子と遊んでいて、生まれながらに道徳心があるのではないかと言うことを実験から言っているが、私はちょっと違うと思っている。赤ちゃんは道徳心を持っているのではなくて、自分が生存するためにどちらを味方にしたほうがいいかと言ったら、助ける方と遊んだ方がいいに決まっている。これはそっちが正しいという正義感ではなく、人類が生きていくためには当然助ける方を取る。道徳心は正しい正しくないよりも、人同士が助け合う、力を合わせるとか、そういう遺伝子を持ったホモサピエンスの生存戦略なんですね。そのためにそっちを好む、私は、道徳心・正義は遺伝子の子孫に残していくためにあるから当然、生まれつきだと思っている。中国の発表ではないが、正義のために人を殺すことは正義ではないと思っている。それはそちらの言い分だけの話。正義は自分たちの遺伝子を遺す。

—共生と貢献—

有名な『利己的な遺伝子』の本の中で、非常に利己的で、それを遺そうとすればするほど、他を大切にしないと残せないことを知る。人間のために自然を破壊したら、結局自分たちの生存が危うくなる。他の者と共生し貢献することは人類の役目だろうと、理念に「共生と貢献」をあげている。それを子どもたちへ伝えていきたい。それはどこの国だけの話ではないし、G Tの本ではないが、りんごの木が、りんごをあげるたびにお金をもらうわけではない。中国で広げるためにカリキュラムを作って、広げたらどうかと言われることがあるが、オープンカリキュラムでどこがどう使ってくれてもいいと思っている。違う風に考えても仕方ないと思っている。その方法はその国々でいいと思っている。ただ、その元は日本から発信したんだ、ということだけ残ればいいと思っている。今中国でも広げたいと思っている人がいるので、中国の人たちに広めてください、シンガポールにもこういう保育をしたい人がいるので、その人たちに広げてもらおうと思っている。その考え方の根本が世界を平和にすることや、人類が生存していくためであれば、どういう方法でもいいと思っている。展開するのに会員を増やしたいわけではない。

—嬉しい報告—

最近嬉しいニュースが保育の質について大豆生田先生がうちの園に取材に来て、「色々な園に行く中で質が高い園に会うと、それはみんなG T園です」と言われたのが嬉しかった。一緒に学んでいる園の評価が高くなると嬉しい。それぞれの先生が、地域で講演や発信をしていく活躍を見ることが何よりも嬉しい。「G T園は皆、真面目ですね。保育を語る皆さんですね」と言われると嬉しいです。皆さんが自分たちの形を地域で広げてくれることが私たちの本意です。決して、閉じられた中でやるのではなく、積極的に地域で発信をしていってほしいと思っています。世界の子どもたちのためだと思っています。それが出来るのが研究で分かるのは、乳児からの教育ですので、いろいろ勉強して、決して中国やシンガポールに出したいつもりではなく、向こうに任せようと思っている。皆さんの中でも、それは違うだろうと思っても、そこまでコントロールするのは無理なので地域なりにアレンジしてくれていいと思っている。ただその条件で、年に1回は私を講演に呼んでくれと言う風に言っている。中々、私がやろうとすることはお金に結びつかないので、そういうことよりも考え方が広がってほしいことが願い。そのために人類がどう生きてきて、子どもに必要なのかを皆さんにお話ししたいと思っている。どういうことを目指しているかを知って頂けたらと思います。これで話を終わります。ありがとうございました。

本稿は、2018年8月20日に行われたGTサミット2018の内容をまとめたものです。

(文責/奥山卓矢)